Operation Guide ITM-700J

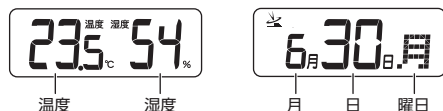
CASIO

各部の名称と表示の見方

（表面）

（裏面）

※　機種により形状等が異なることがあります。

●デジタル表示の見方

●温度・湿度表示について

温度・湿度表示は時計に内蔵されているセンサーにより、時計内部の温度・湿度を計測／表示するものです。そのため、急激な変化が起きても、その温度や湿度を表示するまで（時計内部がその温度や湿度と同じになるまで）約30分程度かかります。

なお、計測機能上、本機を冷・暖房器具の送風口の近くで使用しないでください。

★温度表示は16秒ごと（電池を入れてから15秒間は3秒ごと）に計測した温度を表示します。

※－50℃未満は“LO”表示、70℃を超えると“HI”表示となります。

※0℃未満、41℃以上でも温度計測を行ないますが、本機の温度保証範囲外となります。

★湿度表示は16秒ごと（電池を入れてから15秒間は3秒ごと）に計測した湿度を表示します。

※10%未満は“LO”表示、95%を超えると“HI”表示となります。

①時刻セットボタン
現在時刻などを合わせるときに使います。

②WAVE（ウエイブ）ボタン
押すと電波受信を行ないます（手動受信）。

③セットボタン
現在時刻などを合わせるときに使います。
押すとセット状態が切り替わります。

④リセットボタン
電池交換後必ず押します。

⑤TIME SHIFT（タイムシフト）　ボタン
タイムシフト機能を使用するときに使います。

⑥デモボタン
押すと時報音をためしに聞くことができます。

⑦時報ON／OFFスイッチ
時報のON／OFFおよび時報音を選ぶことができます（チャイム／鳥の鳴き声）。

⑧音量スイッチ
時報の音量を3段階で選べます。

電源について

●本機は時計用に単2形アルカリ乾電池を2本と温度・湿度計測用に単3形マンガン乾電池を1本使用しています。

●乾電池はできるだけ“カシオ指定の電池”または同等品をご使用ください。

●本機を長期間ご使用にならないときは、電池を取り外して保管してください。

お願い

機種により付属の電池を製品に入れて出荷しております。この場合は、電池消耗を防ぐために、電池部分に「絶縁シート」をつけておりますので、ご使用の前に必ずこの「絶縁シート」を抜き取ってください。

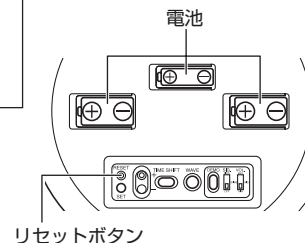
電池

リセットボタン

■ 電池交換のしかた（電池は全て交換してください）

(1) 本機裏面側にある古い電池を取り出します。

(2) 新しい電池の⊕⊖を間違えないようにして完全に押し込みます。

(3) 電池交換後リセットボタンを押します。

＜ご注意＞

● 電池の⊕⊖の向きは正しく入れてください。

● 電池が消耗しますと誤動作（リセット・時刻狂いなど）や液晶表示が「薄くなったり」「消えたり」します（アナログ時計の場合「時計が遅れたり」「針が止まったり」します）。このようなときは長時間放置せず、速やかに新しい電池と交換してください（定期的な交換をおすすめします）。

● 付属の電池は充電式ではありません。絶対に充電しないでください。

● お買い上げ時に付属している電池はモニター用電池*のため、記載の電池寿命（約1年）よりかなり短いものとなっております。新しい電池に交換する際は「アルカリ乾電池」を使用することをおすすめします（時計用のみアルカリ電池）。

*モニター用電池とは時計の機能や性能をチェックするための電池のことで、時計本体価格に電池代は含まれておりません。

※ 電池は幼児の手の届かない所に保管してください。万一飲み込んだ場合にはただちに医師と相談してください。

※ 電池が液漏れを起こした場合は液に触れずにすぐにふきとってください。

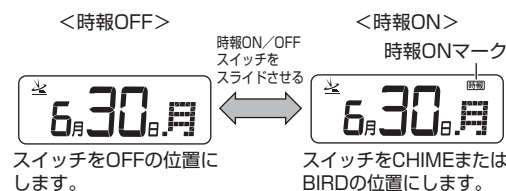
時報機能の使い方

時報機能をONにすると午前7：00から午前12：00までの毎正時（18回／日）に報知を行ないます。
時報音はチャイム音と鳥の鳴き声があります。

●時報のON／OFF

本機裏面の時報ON／OFFスイッチで切り替えます（時報マーク点灯）。

スイッチをOFFの位置にします。

スイッチをCHIMEまたはBIRDの位置にします。

●時報音の切り替え

本機裏面の時報ON／OFFスイッチで時報音の切り替えができます。

OFF	CHIME	BIRD
時報はなりません。	時報がなります。音はウエストミンスターチャイムです。	時報がなります。音は7種類の鳥の鳴き声からランダムに選ばれます。 鳥の種類 アカショウビン、カッコウ、コルリ、ウグイス、クロツグミ、ホオジロ、イカル

●時報音量の選択

時報の音量を3段階で選べます。本機裏面の音量スイッチで切り替えます。

●時報をためしに聞くには

本機裏面のデモボタンを押すと時報を1回聞くことができます。

Operation Guide ITM-700J

CASIO

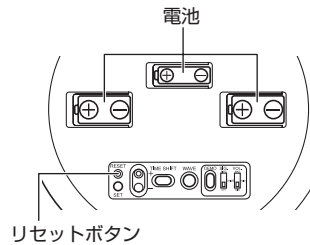
本機の使い方

本機ご購入後初めて使用するとき、および電池交換後には、以下の手順で操作を行なってください。
※本項目と共に「電波時計について」を合わせてお読みください。

1 電池を入れます

本機裏面にある電池ボックスに⊕ ⊖の向きに注意して、電池を正しく入れます。

2 リセットボタンを押します（リセット操作）

本機裏面のリセットボタンを押します。
➡デジタル表示が「午後 12：00 00」となります。
また、アナログ針が 12 時の位置まで自動的に送られます。
※電池交換を行なったあとは、必ずリセットボタンを押してください。

3 本機を使用したい場所に置きます

デジタル表示が「午後 12：00 00」、アナログ針が 12 時の位置になると、自動的に電波受信を開始して時刻修正を行ないますので、窓際などできるだけ電波受信しやすいところに置いてください。
※受信中は受信インジケーターで受信状態をお知らせします。

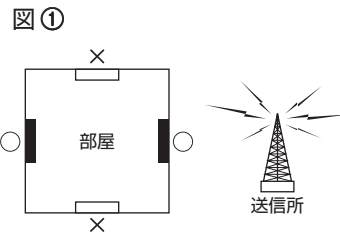
＜受信インジケーター＞	
1段階 ━ 受信しづらい 2段階 ━━ 3段階 ━━━ 4段階 ━━━━ 受信しやすい	*受信開始後、受信状態により段階的に変化します（4段階）。 *受信しやすい場所でも4段階まで表示するのに約10秒程度かかります。 *天候、時間、環境等により電波の状態は変化します。 *受信インジケーターは受信状態の確認および使用場所を決める際の目安としてお使いください。

図①

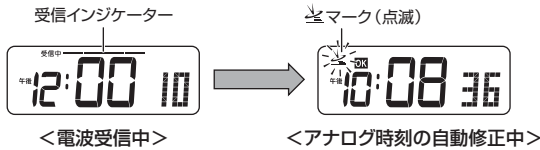
※電池投入後（リセット後）、最初の受信のみアナログ針は 12 時位置に止まったまま行なわれます。
またデジタル部は時刻を表示します。
2回目以降の受信では、アナログ針を運針させたまま行ないますが、受信しやすくする為、多少ずらして運針します（1 秒以内）。
またデジタル部は「月・日・曜日」を表示します。
※1 回の受信は約 2 ～ 14 分間（リセット直後は約 4 ～ 14 分間）です。
※受信中にボタン操作を行なうと受信を中断しますので、受信中はボタン操作を行なわないでください。

＜ご注意＞

●お掛けになる場所は、窓側などできるだけ電波が届きやすいところに送信所と壁面の向きを考慮して選んでください（右図①）。
●電波受信の様子を見る場所は、お掛けになりたい場所のできるだけ近くに同じ向きにして置いてください（右図②）。

図②

➡ **受信成功**

デジタル部…すぐに正しい時刻に修正されます。また、OKマークおよび受信マークが点灯して受信成功をお知らせします（アナログ部の修正中は、時刻表示を行ない、その間受信マークは点滅します）。
アナログ部…正しい時刻の位置まで針が自動的に進みます。
- アナログ時刻が 1 分前後で進んでいた場合は、その間針は停止します。
- 時刻修正が完了するまで、最大 3 分程度かかります。
- 受信マーク点滅中は、手動受信を行なえません。

※受信成功後、テレビや電話サービス等の時刻と本機の表示する時刻を照合してください。
※場合により「時」「分」「秒」のみ正しく表示されることがありますが、その後受信に成功すれば「月」「日」「曜日」も正しく表示されます。

※ 正しい時刻の位置までアナログ針が自動的に進みます。
（修正終了後、受信マークが点灯表示となります。ただし､「時」「分」「秒」のみ修正された場合は受信マークは点灯しません。）

➡ **受信できない** … 時刻修正は行ないません。

数分後に受信は止まります。
※このときは、本体の向きや置き場所を変えて WAVE ボタンを押して、もう一度受信開始させてください。
※WAVE ボタンを押さなくても「午後 1：01」になると再び自動受信を開始します。以後、受信成功するまで 1 時間毎に自動受信を行ないます。

●**手動受信**

WAVE ボタンを押すと、電波受信が開始され、受信インジケーターが表示されます。
※一般的に送信所からの距離が近い方の電波が受信しやすいと考えられますが､電波環境や使用場所によっては、送信所からの距離が遠い方の電波が受信しやすい場合があります。
※電波受信が全くできない場合でも、月差± 30 秒の精度で計時します。

受信できない場合でも、翌日に電波受信に成功することもありますので、しばらくそのままにしておいてください。

4 1～2 週間電波受信の様子を見ます

本機は午前2:01／午前3:01／午前6:01／午前10:01／午後2:01／午後6:01／午後10:01（計7回／日）に受信を行ないます。
受信に成功しなかったときは毎時 1 分に電波受信を行ないます。

そのまま、その場所でお使いになれます。

“受信マーク” がまったく点灯しない、または時々しか点灯しない

電波受信しづらい

その場所では電波受信しづらいので、置き場所を変えてください。
その場所で使用するときは、ときどき受信可能な別の場所で電波受信を行なってください。

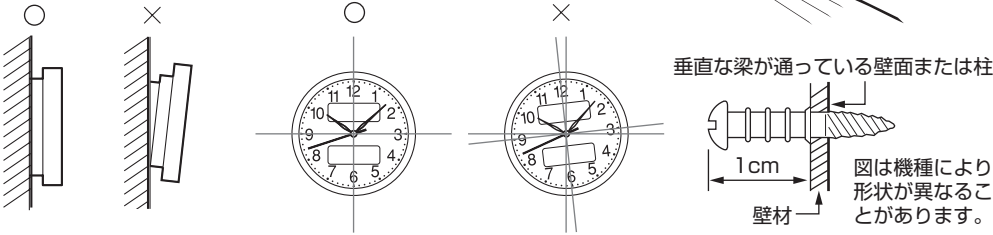
5 本機を取りつけます

※受信の様子を見た場所とお掛けになった場所で、電波受信に差が出る場合があります。

＜時計の掛け方について＞

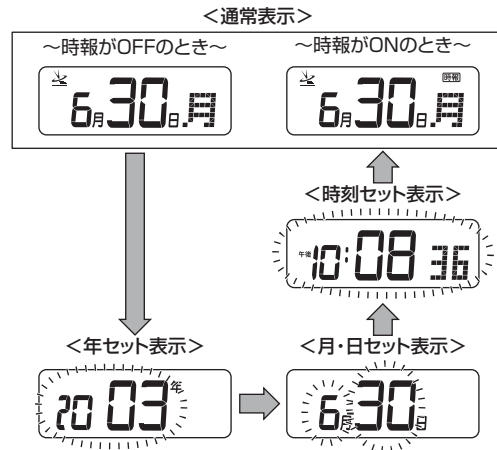
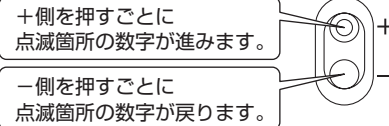
●ネジを垂直な梁が通っている壁面または柱にしっかりネジ込みます。
●下図の様に時計を正しい姿勢で取りつけます。

垂直な梁が通っている壁面または柱

図は機種により形状が異なることがあります。

時刻の合わせ方

●デジタル時刻の合わせ方

電波受信により、時刻修正できないときに以下の操作を行なってください。
以下の操作で時刻を修正すると、修正後24時間は自動受信は行ないませんのでご注意ください。

(1) セットボタンを押して、セット表示（点滅表示）に切り替えます。

(2) 時刻セットボタンを使って、現在時刻などを合わせることができます。

※それぞれ押し続けると早送り／戻しができます。

★年は2000年〜2039年までセットできます。
★カレンダーはうるう年および大の月、小の月を自動判別するフルオートカレンダーです。
★＜時刻セット表示＞のときボタンを押して分を進めた（戻した）タイミングで「00秒」からスタートします。

(3) セットが終わりましたら、セットボタンを押して＜通常表示＞に戻します。
※時刻を修正した場合はデジタル時刻に合わせてアナログ針が自動修正されます。
※セット状態で表示を点滅させている間は、自動受信を行ないません。
※アナログ時刻の自動修正中（マーク点滅中）にセット表示に切り替えると自動修正は中断され、通常表示に戻した後、再び修正が開始されます。

タイムシフト機能の使い方

本機は電波で受信した時刻を基にして表示する時刻をずらして使うことができます。
以下の場合などに便利です。
例・受信した時刻より時計を10分進ませて使いたい場合
・時差分をずらして海外時刻を表示させたい場合

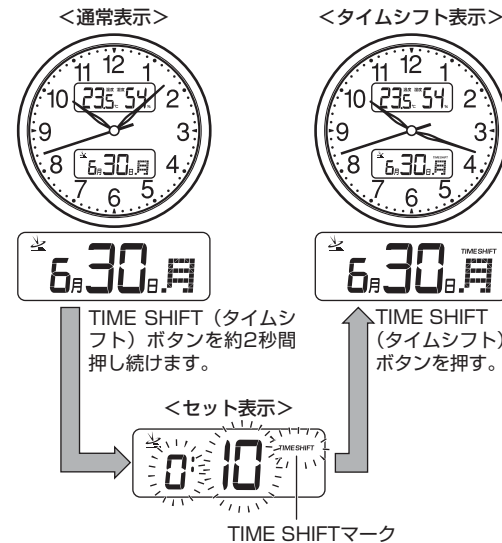
●シフト時間のセット

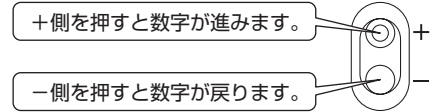
(1) 通常表示の時、TIME SHIFT（タイムシフト）ボタンを約2秒間押し続けます。表示が以下のように切り替わります。

＜通常表示＞　＜タイムシフト表示＞

TIME SHIFT（タイムシフト）ボタンを約2秒間押し続けます。

TIME SHIFT（タイムシフト）ボタンを押す。

＜セット表示＞

TIME SHIFTマーク

(2) セット表示のとき時刻セットボタンを使って、ずらしたい時間をセットします。

※押し続けると早送り／戻しができます。
※ずらせる時間は現在の時刻より－23時間59分〜＋23時間59分の範囲になります。
※セットは1分単位です。

(3) セットが終わりましたらTIME SHIFT（タイムシフト）ボタンを押して通常表示に戻します。時刻はセットした時間分だけずれて表示を行ないます。
※タイムシフト表示ではTIME SHIFTマークが点灯します。
※セット状態で表示を点滅したままにしておくと、約3分後に自動的に通常表示に戻ります。

タイムシフト機能のON／OFFは以下のようになります。
ONの場合
・タイムシフト時間がセットされている。
・TIME SHIFTマーク点灯。
OFFの場合
・タイムシフト時間がセットされていない(0:00)。
・TIME SHIFTマーク不灯。

●タイムシフト機能の解除

解除は再びセット状態に切り替え、タイムシフト時間を0：00にセットします。
TIME SHIFTマークは消灯します。

CASIO

電波時計について

●電波時計とは

正確な時刻情報[日本標準時]をのせた長波標準電波(JJY)を受信することにより、正しい時刻を表示する時計です。

日本標準時：日本の時刻のもとになるもので、テレビの時報などに利用されています。
この標準時は「セシウムビーム型原子周波数標準器」等により制御されています。

> 電波時計は正確な日本標準時を受信していますが、時計内部の時刻演算処理等により、時刻表示に1秒未満のズレが生じます。

●標準電波

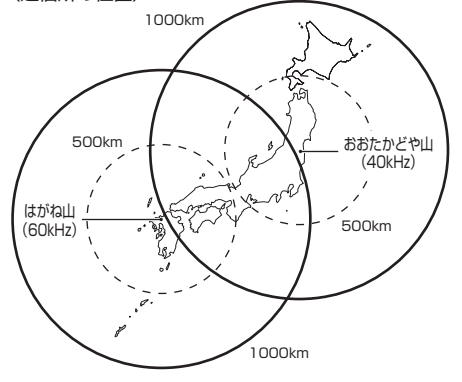
標準電波は独立行政法人通信総合研究所(CRL)が運用しており、福島県田村郡の「おおたかどや山標準電波送信所」(40kHz)および佐賀県と福岡県の境の「はがね山標準電波送信所」(60kHz)から送信されています。この標準電波はほぼ24時間継続して送信されていますが、保守作業や雷対策等で一時送信中断されることもあります。

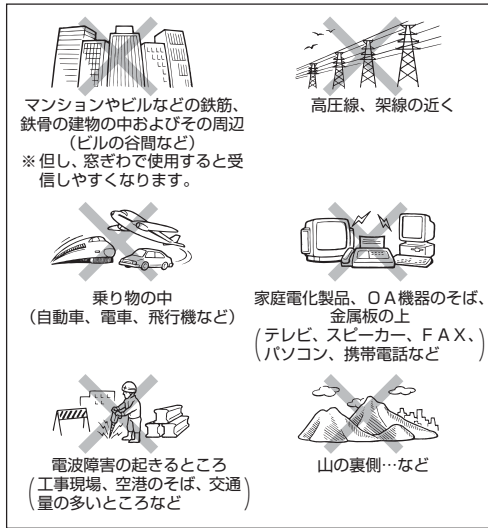
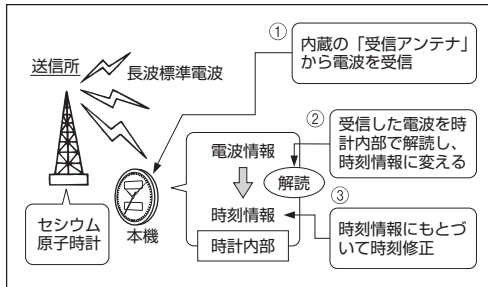
●電波の受信範囲の目安

条件の良いときは、送信所からおよそ1000km離れた場所でも受信することができます。

※ただし、約500kmを超えると電波が弱くなりますので、受信しにくくなることがあります。

※受信範囲内であっても、地形や建物の影響を受けたり、季節や天候、使用場所、時間帯(昼/夜)などによって受信できないことがあります。

※電波の特性により、夜間の方がより受信しやすくなります。

●使用場所について

本機は、テレビやラジオなどと同様に、電波を受信するものです。本機を使用するときは、「電波を受けやすい」部屋の窓際などでご使用することをおすすめします。以下のような場所では、電波受信しにくくなりますので、このような場所は避けて本機をお使いください。

●受信のしくみ

●電波受信について

本機は「おおたかどや山標準電波送信所」(40kHz)と「はがね山標準電波送信所」(60kHz)の2局より受信しやすい方の電波を自動的に選択し受信を行ないます(自動選局機能)。通常は7回/日電波受信を自動的に行います(自動受信)。

※1回の受信は約2～14分間(リセット直後は約4～14分間)です。

※受信に成功すると、すぐに正しい時刻を表示し、アナログ時刻の修正を開始します。修正中はマークが点滅表示され、修正が完了すると点灯表示となります。

OKマーク…現在の時刻台に電波受信が成功していることを表します。
(例:現在が午後2時35分の場合、午後2時台に受信成功していることを表します)
※時刻台が変わった場合、または手動受信を行なった場合は消灯します。

マーク…1日1回以上、電波受信が成功していることを表します。
(正しい時刻が表示されているかどうかの目安になります)
※ただし、受信成功していても午前2時と午前3時になると一度消灯します。その後受信成功すると、再び点灯継続します。

<正しく受信するために>

○電波受信できる場所でお使いください(「●使用場所について」参照)。

○本機を電波送信所方向に向けると、受信しやすくなります(本機に内蔵されている受信アンテナと電波送信所が垂直方向になるようにすると、最も受信しやすくなります)。

最も受信しやすい設置のしかた

○受信中(受信インジケーター表示中)に時計を動かしたりボタン操作をしないでください。なお、受信中にWAVEボタン等を押すと、受信を中断します。

<ご注意>

○時刻セットボタンを使って現在時刻を修正すると、以後24時間自動受信は行ないません(マークは消灯します)。ただし、この間にWAVEボタンを押して手動受信を行なうと、その時点で解除されます。

○電波受信を行なわない間は、月差±30秒以内の精度で計時します。

○電波障害により、誤った信号を受信することがあります。